

たがまつの森

港区立高松中学校 学校だより 11月号

令和7年11月12日 校長 大島 一浩

創立1949年（昭和24年） 高松中学校は今年度で76周年を迎えました。

歌声の響く学校 -それを支えるもの-

先月の18日（土）に、合唱コンクールを行いました。2週間前から特別時程の7時間目を設定し、各クラス毎日練習を重ねてきました。校舎には、連日歌声が響いていました。

当日は、4組の太鼓の演奏から始まり、各学年・学級の合唱、午後には吹奏楽部の演奏がありました。また、本校で過去に音楽科の教員として当時の合唱コンクールを支え、現在は大学で教員養成に尽力されている先生を特別審査委員に迎えました。1年生にとっては初めての合唱コンクール、緊張の中にも大きな声を出して頑張る姿が新鮮でした。2年生は昨年の経験をもとに一步進んだ合唱を披露しました。3年生の合唱は、一人一人の合唱の技能、集団としての高い表現力、どれをとっても圧巻でした。下級生に立派に本校の伝統を示してくれました。

それから31日（金）には、サントリーホールで行われた「港区中学校音楽交歓会」に、学校を代表して3年生が出場し、「時の旅人」・「青葉の歌」の2曲を披露しました。どちらも素晴らしい合唱で、見事に観客を魅了していました。中学生の合唱には人を感動させる力があると、いつも感じます。

さて、質の高い合唱を支えているものとは何でしょうか。もちろん、練習の積み重ねによる技術の向上にあることは間違いないかもしれませんが、それだけではないと思っています。例えば、ステージの入退場の振る舞いが礼儀正しくきちんとしていれば、見る人の期待が膨らみます。そしてそれに応えようとする側の気持ちも一つになって、その合唱がより素晴らしいとなると思うのです。そういう意味でも、本校の合唱には誇るべきものがあると感じています。

校内での合唱コンクールの前にはリハーサルを行い、丁寧に入退場の確認を行います。本番でただ並べばいいのではなく、整然と行動しながら一つになった気持ちや姿勢を見せることが大切なことです。そしてそれは、学校行事当日の「いざ」という時だけではなく、「日頃」がどうなのかということに大きく関係しています。「その時やればできる」のではなく、「いつもできている」ことが最も大切なわけです。



合唱コンクールでの3年学年合唱



港区立高松中学校 X (旧 Twitter)
学校生活のようすなどを X にて発信しています。
学校 HP の学校ブログと合わせてご覧ください。